

ちさんちしょう

こくしょうこくさん

「地産地消」「国消国産」で

食卓からSDGsを始めよう。

日本の食と農、SDGsの実現のために「地産地消」「国消国産」

私たちが地域でできること

—「地産地消」

日本の食と農、SDGsのために、地域でできる取り組みが「地産地消」。その地域で生産された農畜産物を、その地域内で消費することです。例えばファーマーズマーケットを利用すれば、新鮮な地元の農畜産物に出会えます。また、食材の長距離輸送にともなうCO₂の排出削減につながり、環境への負荷を減らせます。

日本の食と農を未来につなぐ

—「国消国産」

「地産地消」をはじめ、国産の農畜産物を消費することで、食の安心をすすめていくこと。それが「国消国産」。国民が必要とし消費する食料は、できるだけその国で生産するという考え方です。日本の食料自給率はカロリーベースで37%。6割を輸入に頼っており、このままでは、いざという時に心配です。生産者は今、消費者ニーズに応える農畜産物づくりに取り組んでいますが、日本の食を守るためには、国産農畜産物をもっと食べて、農業を応援していくことが重要です。

持続可能な社会を

—SDGsにつながる「国消国産」

このまま日本が国内生産を増やす、食料を海外に依存し続けたらどうなるか。安易に途上国から輸入をすることで、その国の食料を奪う可能性はないのか。「地産地消」「国消国産」をすすめることは、持続可能な食料、農業、地域社会、環境など、SDGsの実現に貢献します。またJAグループは、子ども食堂への食材提供、農業従事者への各種支援、フードロス削減など、さまざまな活動を展開し、SDGsの達成を目指しています。

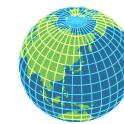
10月16日は「国消国産の日」

10月16日は1945年に国連食糧農業機関(FAO)が発足した日です。国連はこの日を「世界食料デー」に定め、JAグループは「国消国産の日」として日本記念日協会に登録しました。JAグループは皆さんと共に「国消国産」をすすめ、持続可能な社会の実現を目指していきます。

SDGs 持続可能な開発目標

(JAグループの取り組み)

- 「飢餓をゼロに」
- 子ども食堂やフードバンクへの食材提供
- 「働きがいも経済成長も」
- 農業従事者への各種支援
- 「つくる責任つかう責任」
- フードロス削減
- エシカル消費の推進
- 農業生産における環境負荷の軽減 など



2 飲食を 安全に 楽しむ ために

4 環境に やさしい 本を みんなに 読んでも らう

8 繁榮する 地域社会を つくる

9 環境と 資源を 守る 循環型 社会を つくる

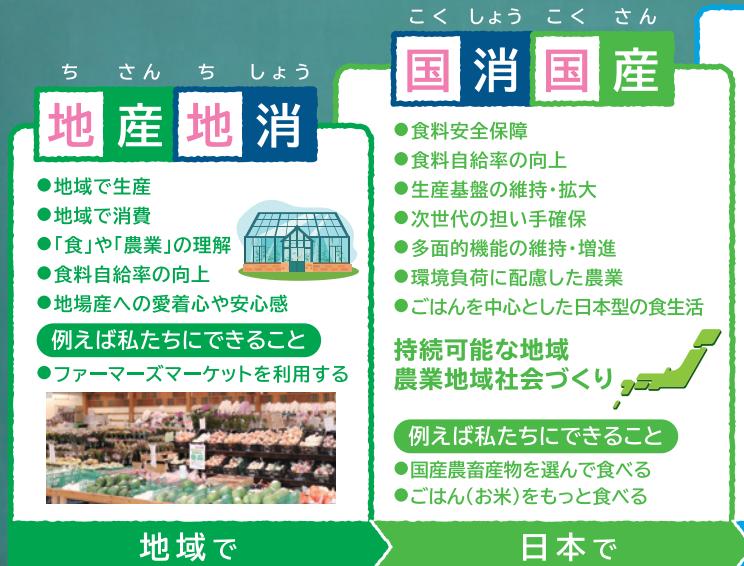
11 農業生産 を活性化 させる ための 政策を つくる

12 フードロス を削減 する ための 政策を つくる

14 環境負 荷を軽減 する ための 政策を つくる

15 地域社会 を活性化 する ための 政策を つくる

「国消国産」はSDGsの達成に貢献



J.A.グループ サポーター・林修



耕そう、大地と地域のみらい。 JAグループ